

【概要】

- 文部科学省「WWL コンソーシアム構築支援事業」の1プログラムとして令和3年度に府立高校共通履修科目「スマートAP」を実施し、指定期間が終了した令和5年度から、京都府独自事業として継続実施している。
- 受講生は、京都府教育委員会がALネットワーク京都拠点校・共同実施校又は連携校に指定した府立高等学校第2学年在籍生徒で受講を希望する者とし、Web会議システム(Zoom)で全8回遠隔(オンライン)授業を行うものである。なお、第8回は、他府県及び海外の高校生も参加する京都府WWL高校生サミットとして実施している。
- 本科目を受講し満足な成果を修めた者には、在籍校の卒業必要単位数外として1単位を認めることとしている。
- 令和6年度は、実施方法(講義形式、開講講座数、大学講師陣等)は変更せず、これまでの実績を踏まえ、対象校・人数を拡大した(6校から11校・25名から46名)。なお、今年度の単位取得者は、46名中44名であった。
- 次年度は、多様な高校生との交流を促進するため、対象校を京都市立高等学校に拡大して実施する予定である。
- また、参加者からオンラインだけでなく、対面での実施希望が多いことから対面実施も検討する予定である。

令和6年度府立高校共通履修科目「スマートAP」について(報告)

1 趣 旨

イノベティブなグローバル人材に求められる資質・能力として、本府WWLコンソーシアム構築支援事業が定義する6つの力のうち、主に、②多様な文化的背景を持つ人々と協働する力、③科学的に思考・分析する力、⑤課題解決の枠組みをデザインする力の育成に関連し、大学との協働による高度で先進的な学びのプログラムを提供し、大学教育との効果的な接続に資する。

2 目 的

グローバルな社会課題の解決に必要なリサーチスキルを習得させるとともに、イノベティブなグローバル人材の基盤となる論理的・批判的思考力と多文化協働力を育む。

3 受講者

ALネットワーク京都の拠点校(鳥羽高校)・共同実施校(福知山高校)及びネットワーク連携校に指定された京都府立高校に在籍する2年生生徒のうち、受講を希望する者としている。令和6年度は対象校を拡大し、11校(参加校10校)とし、46名の受講者があった。なお受講者46名の内単位修得者は44名であった。

学校名	受講者	
鳥羽	14名	
福知山	5名	
洛北	5名	
嵯峨野	5名	
洛西	2名	令和6年度拡大校
桃山	4名	令和6年度拡大校
東宇治	1名	令和6年度拡大校
城南菱創	3名	令和6年度拡大校
南陽	2名	
峰山	5名	
合計	46名	

4 内 容

大学教員によるリレー講義・ワークショップから成るプログラムを Web 会議システム (Zoom) で全 7 回遠隔 (オンライン) で実施。第 8 回は、その成果を踏まえて令和 6 年度京都府 WWL 高校生サミットを実施した。なお、受講にあたっては自宅からの受講も可としている。

回	日程	時間	テーマ・内容	受講者数
第 1 回	4月20日 (土)	A	導入・リサーチスキル①「課題研究の意義、問いの立て方」 杉岡秀紀氏 (福知山公立大学地域経営学部 准教授) 江上直樹氏 (大阪大谷大学教育学部 教授)	46
第 2 回	5月25日 (土)	B	リサーチスキル②「研究テーマの決定ーRQの設定と仮説の構築ー」 乾明紀氏 (京都橘大学経済学部 教授)	43
第 3 回	6月15日 (土)	B	リサーチスキル③「研究方法についてー量的研究と質的研究」 神吉紀世子氏 (京都大学大学院工学研究科 教授) 荒木望氏 (神吉研究室修了生)	42
第 4 回	7月13日 (土)	B	多文化協働の手法”Team Work and Collaboration” レベッカ・アクセルソン講師 (豪州・クイーンズランド工科大学)	38
第 5 回	7月27日 (土)	A	論理的・批判的に考える 柿澤寿信氏 (立命館大学共通教育推進機構 准教授)	35
第 6 回	8月17日 (土)	A	リサーチスキル④「チームでプチ課題研究！研究計画書を作ろうー」 乾明紀氏 (京都橘大学経済学部 教授)	37
第 7 回	9月21日 (土)	C	リサーチスキル⑤「プレゼンテーションの技法」・まとめ 杉岡秀紀氏 (福知山公立大学地域経営学部 准教授)	39
第 8 回	10月26日 (土)	10:00 ～16:00	京都府 WWL 高校生サミット	44

各回の授業 (第 8 回を除く) の構成と時間割は、次のいずれかのパターンで実施した。

パターン	講義 I	講義 II	レポート作成
A	午前 10 時 30 分～正午	午後 1 時～2 時 30 分	午後 2 時 30 分～3 時
B	午後 1 時 10 分～2 時 40 分	午後 2 時 50 分～4 時 20 分	午後 4 時 20 分～4 時 50 分

5 令和3年度からの変更履歴

- (1) 令和 3 年度は、実施対象校を AL ネットワーク拠点校 (鳥羽高校) と共同実施校 (福知山高校) の 2 校で実施した。
- (2) 令和 4・5 年度は BYOD の導入状況を踏まえて連携校な中から対象校を数校拡大して 6 校とし、受講者は 25 名で実施した。
- (3) 令和 6 年度は、全 AL ネットワーク校に対象校を拡大して 11 校で実施した。それに伴い受講者も増加し 46 名で実施した。
- (4) 受講生が遠隔講義を受講する際、令和 3 年度は教員の指導の下で在籍校から接続させたが、令和 4 年度以降は担当教員の負担軽減、生徒の機器操作習熟度の向上により自宅からの受講を可とした。
- (5) オンラインでの実施については、令和 3 年度の当初計画では数回を対面で行う予定であった

が、新型コロナ感染症拡大防止の観点から全講義オンラインで実施している。

6 第8回「京都府WWL高校生サミット」について

下記に開催報告あり。

<https://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/cms/?p=410>

7 成果と課題

(1) 成 果

ア プログラムの趣旨・内容について

- 令和3年度から、「大学の初年次教育との接続を図ること」と「各校における探究学習の指導に生かすこと」を意識し、探究の「作法」を一通り学ぶことができるプログラムの研究開発をおこなってきた。過去4年間の取組実績によって、安定的かつ充実したプログラムとなり、所期の目標は達成できている。
- 受講者事後アンケートから、このプログラムで学んだことを学校における探究学習や教科学習に生かそうとする意識が醸成されたことがうかがえた。

☆プレゼンテーションの仕方や、問いの立て方、探究のプロセスなどスマートAPで学んだことを活かして学校の探究活動をよりよく、スムーズに進めることができました。

☆スマートAPのプログラムは、探究や研究の進め方、発表の仕方など、将来役立つような内容を身につけることができたという点でとても有益でした。具体的には、限られた時間内で、グループの皆で話し合って、スライドも作成して発表する、ということをほとんど初めて経験しましたが、とても難しかったです。しかし、そのような話し合いを上手く進めるための、グループ内役割分担とか、スライドなどの内容などを学べたのでとても有意義でした。また、これらのプログラムから学んだことを特定の教科、というよりは、各教科で行われる発表のときなどに活かせたと思います。

☆特に論理的に考える方法を学んだことで、国語などで文章を書く時に自分の考えの流れをはっきりさせられるようになった。

☆大学教授の先生方から直々に講義を受けられる点が特に有意義であったと感じました。その中で、大学の講義と同じような形で講義を受けて、より一層大学というものに興味・感心を持ちました。なので、大学に行くためにより一層英語などの苦手教科に力を入れるようになりました。

☆知らない人と初対面でも意見を出しあったり、討論するコミュニケーション能力。日々の授業では聞き逃しがないように細かいことにもメモしたりする癖がついた。

☆批判的に見る事がすごく生かせたと感じます。自分は物事を批判的に見る事が苦手でいいところしか見つけられなかったけど批判的に見るコツをスマートAPを通してわかったし批判的に見ると理解がさらに深まる事がわかりました。

- また、下記の事後アンケートから、カリキュラム連携としての高大接続に発展していることがうかがえる。さらに、第3回神吉教授の講義、第7回杉岡准教授の講義には、社会人となった大学院修了生が講師として参加し、社会人の立場から高校・大学での学びについてアドバイスをいただいた。本プログラムへの社会人の参画は、キャリア教育、高大社連携の観点から意義がある。

☆スマートAPは私にとって有益なものでした。大学で必要になるスキルをこのプログラムで身に付けることができ、将来について具体的に考えることができました。また、将来に対する意識も前向きになりました。

☆今後社会や大学に出た時にプレゼンテーション等を行う機会は多くなると思うので、その時に今回学んだことを活かしていきたい。

○

なお、大学院修了生の参加は、修了生の学びを深める機会ともなり、大学側から大変良い機会になると評価されている。

イ 実施方法・形式について

- Web会議システム(Zoom)を活用した実施は、距離の壁(府内、府県、国)を越えて高校生が交流できる点で有効な手段である。
- 対象校担当者や受講生との連絡、オンライン機器の活用等、これまでの経験の蓄積と対象校の協力のもと、トラブルもなくスムーズな運営ができた。受講生在籍校担当者等の負担感についても、Teams等ICT機器の活用により軽減できた。
- また、各回ともに対話的な学びを促進するためグループワークを重視している。Web会議システム(Zoom)でのグループワークも円滑に実施することができ、オンラインのメリットへの気づき、コミュニケーション能力向上等、受講生から下記の意見が聞かれた。

☆グループワークが苦手だったので良い練習になりました。もともとデジタル機器が苦手なのですが、そのメリットを知ることができました。

☆難しい内容に対して様々な視点から考える思考力や見知らぬ人と交流するコミュニケーション能力を培うことができました。これらを活かして、スマートAPと並行して行っていた丹後万博という地域行事でも、生徒代表として今までにない取組を提案したり別の高校の生徒と積極的に交流し仲を深めたりすることができました。

ウ「京都府WWL高校生サミット」(以下「サミット」)との連動について

- これまで通り、サミットを本プログラムにおける学習成果の発表の場として位置付けた。本プログラム受講生46名中44名が参加し、本プログラムで得た知見を活かし、グループディスカッションにおいて中心的な役割を果たした。これは、本プログラムを通して探究的な学習態度やリーダーシップ、多様な文化的背景を持つ人々と協働する力が養われたことの証左である。なお、欠席者は学校行事との重複によるものである。

エ 受講生の取組状況について

- 受講生の受講態度は意欲的であり、グループワーク等にも積極的に参加した。レポート等も怠りなく提出できた。

(2) 課題

ア プログラムの趣旨・内容について

- 概ね本プログラムの趣旨は達成していると考えられるが、講義によってはその内容上講義形式の時間が長いものもある。より対話的な活動の時間が確保できるよう、講師陣と検討する必要がある。

イ 実施方法・形式について

- 受講者人数定員40名のところ希望者全員を受講可として実施した。ただ、参加者へのきめ細かなフォローアップ等に課題があり、次年度は定員を40名以内に限定する予定である。
- 土曜日実施のため、部活動公式試合と重なり欠席者がある。致し方ないことであるが、事前に、部活動や学校行事との両立困難性についての丁寧な説明、欠席者へのフォロー(アーカイブ受講を可とするなど)を引き続き行う。

○受講終了後のアンケートに「最終的に実際に対面して活動を行った方が、より学びが深められると思います。」等、多くの受講者から対面実施の要望がある。当初計画では対面講義を予定していたところ新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点でやむなく中止したものであり、次年度は予算等検討し、対面実施の可能性を探る。

ウ 「京都府WWL 高校生サミット」(以下「サミット」)との連動について

○44 名が参加し、グループワークでは中心的な役割は果たした。しかしながら、当日、在日外国人に英語グループのファシリテーターとして依頼しているが、打合せ時間の不足、ファシリテーターの力量の差により、受講生の力量が十分に発揮できないグループもあった。